

## 現時局下に於ける幼児保育 (二)

倉 橋 惣 三

私の問題は「現時局下に於ける幼児保育」さういふ問題であります。これはいろいろの方面から取り扱はれると思ひますが、私はこの度は、この非常な時局下に於て我等が幼児保育上特に力を用ひねばならぬ保育方向に就いて御一緒に考へてみたいと思ひます。それらの方向は、日本の保育に於て、今日特に始めて新しく起つたことではありません。

豫ねて含まれてゐたことではありますが、お互の時局認識から、一段と擴大され、強化されて來た事が取り上げられるのであります。さて、現時局下には、日本が大きい戦争で大きい建設を同時にしてゐる時です。しかもそれが、長期に亘るべき戦争であり、建設であり、従つて我等のあの可愛い、子供達に荷つて貰はねばならぬ戦争であり、建設であるのであります。そこで、それに對して如何の方向に保育すべきか。

### 第一 皇民教育

その第一は子供達にしつかり皇民教育をすることにあります。皇民的性格を養ふことでもあります。この事はもう實に申すまでもない事ではありますが、私は二つの點で特に御注意を促したいと思つて居ります。一つは幼児さういふ何分にもあの淡い、單純なものを相手としてゐる教育に於て、その皇民教育が、實際として本當に徹底すべきところに狙ひをつけてゐるかさうかさういふ問題であります。たまへば、ここによるに、皇民教育をその言葉の大層高いところで實現してゆかうさしたり、又その反對に、幼いものだからさういふので餘りに淡いものにし過ぎたりはしないかさういふ事があります。これは國民學校にならつて私の唱へてゐる國民幼稚園さういふ事に就いても度々お話し來つたことでもあります。十分に考究を要する點であります。私はその事に就いて、理解の爲豫備的に先づこんなことを考へます。從來幼稚園のなかに、宗教教育を目ざして保育してこられたところがありますが、その場合、特に幼児に對してさう

いふ風に宗教々育をするかといふことについて、いろ／＼研究が出来てゐた事と思ひます。佛教は佛教、基督教は基督教で、先生の高い深い宗教信念を幼い子供にさう與へるさかといふことは必ずしも簡單なことでない。それが幼児宗教教育として研究し來られました。これに必ずしも一つことではないが、同じく性格の教育、信念の教育として、幼児皇民教育の一方はそれ程こまかく研究されてゐないのではないかと考へるのであります。お互、大人のもつ信念そのまゝを幼児が持ち得るわけではありません。質に於て、形式に於て、強さに於て我々と同じにといふ事は無理であります。さいつて、幼児に皇民教育をしないでおくことは保育の任務からいつて許されることではありません。年齢に即して適切なことをしなければなりません。皇民教育といふことは、今更問題を設けるには餘りに當然の事でありませんが、その實際に就ては、周到な研究を要するのであります。

前に二つ感じるを申しましたもう一つの事は、幼児にふさはしい心理的方法如何といふことの他に、今日の時局は皇民精神の發露であると共に、また皇民精神が反映的に強められてゐる時だといふことでもあります。これは恐らく、幼い子供にも同様であります。彼等も皇民精神の最も熱い風、強い波に毎日ひし／＼に押されてゐる。即ち今日に生

きる事によつて幼児達も皇民精神を一杯に享け與へられてゐるのであります。さう考へて、あの子供達を含めた皆が今日の時局から享けてゐる皇民精神の熱い風、強い波、その強さは強さとして、どんな味ひのものであらうかといふことを考へてみなければなりません。私は假りに、ほんさうに假りにいつてみませう。この大戦争が緒戦に於て今日に反對の狀態であつたらさうでありませう。或は反對でなくとも、かくの如く赫々たるものでなかつたましたらさうでありませう。私共大人はそれによつて更に力を出したてでありませうし、また出さねばならぬのであります。勝敗により精神が強くなり、弱くなる相違はないのであります。しかも、この有難い十二月八日以来、我々のうけてゐる皇國精神の反映はさうでせう。楽しいを申しませう。よろこばしいを申しませう。金色の光輝かしく、紅色鮮やかな積極的感激に満たされてゐるのであります。

負けたからしつかりやらうといふの全く別です。いふまでもないことですが、喜びに躍り立たされてゐるのであります。この喜ばしき、嬉しき皇民精神、子供達がこの喜びを以て皇民精神を與へられてゐるといふ事、これこそこの大東亞戦争の事實としての特質であります。私は此點を忘れてはならないと思ひます。忘れるも、忘れぬもない。實にさうなのであります實に、子供等は嬉しさ喜びさ有

難さに於て、毎日皇民精神を反映されてゐるのであります。してみれば、今日に於ける、特に幼児教育に對する感激は、この感激から直接來るものでなければならぬのであります。國に對する責任感も持たせたい。國に備の必要なことも教へたい。油斷するなご性格のまごかに釘を打つておいてもやりたい。けれども先づ皇國に對する感謝教育、歡喜教育が與へられるのであります。それをしつかり與へなければならぬのであります。これは同じ今日でも日本のみが味ひ得る時局下幼児教育の特色であります。さぞかし米英でも、戦時下の幼児保育について論究してゐることでありませうが、それは我々の場合は全く別の性質を持たざるを得ないのであります。

元來、我々が幼児の心理に即して與へようとする保育も、日本人たるこごの嬉しさ、喜び、有難さをあの幼い心に一杯に植ゑつけ育てる事でありませう。しかも、それが何ご有難いこごでありませうか、今日の時局が非常の力で、その皇國民たる喜びの教育、感謝の教育を與へてゐるに與れるのであります。これは我々が一時も忘れてはならぬ事なのであります。

國民學校の國民科の本旨でも、國語なり國史なりをこの精神で教育してゆけご書いてあります。此の國に生れたる

喜びを感じしめよごあります。が、これはさながら、時局下に於ける幼稚園の皇民教育の特色を實にはつきりいひ現はしてゐるご思ひませう。國民學校ごは大東亞戦争前に出來た言葉であります。國に生れた喜びを感じしめよ、國民たる義務を感じしめる前に、國に生れた喜びを感じしめよごいふのは實に深い意味があります。幼稚園に於てもこごに歸著するのであります。

我々は喜びを以て我々の信念を傳へたい。これが爲に第一の必要は、お互が、今日に於ける重大性ご共に、稜威の下に於ける勇士の方々の奮戦によつて自ら感激に満たされてゐるこごです。基督教者は神に對する感謝を以て子供の前にゐる。佛教信者も佛の慈悲に對する感謝を以て子供の前に立つのであります。こんなこごを例にさる迄もなく、我々は實に、この國民的喜びを以て子供の前にゐるのです。此喜びを言葉に彈力的に響かせ、子供の前に行動するこごによつてのみ出來ませう。我々には個人的な不滿もいろいろありませう。けれども子供の前に立つ時には、たゞひたすらにこの國に生れたよろこびを以て立つ。これが第一であります。しかも更に實際ごしては子供達に如何に強く此のよろこびを傳へるか、此の好機會を眞に把むか、これが今日の保育であるご思ふのであります。大正の御代にも、明治の御代にも、萬葉の時代の人ごこの國に生れた喜びを感じ

じましたが、昭和の御代に生れ、この御代に幼児期を過す子等をして、此の偉大な喜びを感激を以て幼稚園時代を過ぎせることに、我々に一點の落度、ぬかりがあつてはならないのであります。しかも誰れだつて今日は此の喜びを感激で子も達と共に幼稚園にゐられることの有難さ、これを感謝せざるを得ないのであります。女子の農村の劇券も、女子の産業戦士の仕事もたゞこれ戦勝の感激さよろこびに於てその苦勞に打勝つてゐるのであります。お互、ここに於て特に強きものがなければならぬと思ふのであります。

昨日は、この時局下における保育の最も主なる狙ひ所として、子供等に皇國民教育をすることを申上げたのでした。この皇國民教育をする事は、必ずしも今日に始まつたのではありませんが、問題とするところは、幼児には我々の持つ信念の形や觀念の形で教育してゆく事は心理的に難しい、そこで、觀念や信念でなく、皇民感情の教育をしてゆくより仕方がないし、また後に國民信念がはつきりしてゆくにしても、その中に生々しい皇民感情が湛へられてゆくのでなければならぬのです。年齢の上からも、基礎教育であるといふ上からも、先づ感情的教育をしてゆくのであります。

さて、皇民感情とは何であるか申しますと、この國に生れた喜び、稜威の下に生れた有難さを感じる歡喜、感謝の他あり得ないのであります。我々は常にこれを志してゐるのでありますが、幸なことに、全國この心で溢れてゐます。それが幼児の感じ易い心にひしひしとくるのであります。さうしますと、一般的、理論的立場からゆきますと、現時局におきましては申し分なくこれが實現せられ得る條件にあるのであります。従つて我々はその點に於て一つでも缺くるところ、努力の足りぬところがあつてはならないと大いに感ずるのであります。

それでは實際さういふところで行はれるか申しますと、お互の心の中にある皇民感情が溢れておのづから幼児に及ぶ。これが第一であることはいふまでもありません。普段でも先生に楽しいところがあるさ自ら子供にそれが及ぶものです。往來でお金を拾つた(笑聲)といふのは情ない喜びであります。朝出がけに楽しい手紙が來てゐた(笑聲)も、私事ながら何もなくして、顔が輝いてゐます。(笑聲)いつもにこ／＼していらつしやる先生だ。今日は特別にこやかである。する子供等が手を引つぱつて顔をみながら、「今日は天氣晴朗だぞ」(笑聲)こさかし女の子なまは、いゝ事教へてあげませう。今日先生にいゝお話があるのですつて(笑聲)等といふ、こんな私事の小さ

な事でも實に影響する。さうもこの頃先生愉快さうである。調べてみるに、今迄人生の暗い雲に蔽はれてゐたのが、たまく宗教的信念を得て人生の暗雲がぱつと開けた。保姆觀音、先生から後光がさしてゐる(笑聲)こんな工合であります。ましてや今朝の新聞で、今朝のラヂオで、先生が私事に比べるこゝの出来ない國民感情に燃えたつて足音も勇ましく幼稚園に來る。子供が鼻をたらしめてゐるは、なん／＼しくみえる。(笑聲)天長節や紀元節の朝にはお互「おはやう」を申しませんで「おめでたう」を申します。今日は毎日おめでたうつゞきであります。先生が私事でよろこんでゐれば、子供は何だ個人的喜びか、自分だけのよろこびかと思ふかもしれません。がこれは國家的喜びであります。普遍的、一般的なものであります。子供が日誌をつけるにします。「昭和十六年十二月八日、先生の顔輝く。時局のこゝは何もわからん、大東亞建設の意義もわからん、南方共榮圏なきといつても一寸もわからん。たゞ先生の顔輝く。(笑聲)子供は難しいこゝは何も知りません。たゞ先生の時局の喜びだけは子供達にひゞく、永遠に影響するのがあります。そこでその日の談話が、みんなに子供等に影響するこゝでせう。桃太郎のお話をするにしても、語る先生に海外遠征の氣が溢れてゐる。稜威にまつろはぬものは飽く迄征服するといふ意氣が溢れてゐる。それはきつて子供

によく通じます。桃がドンブラコッコスッコッコ流れて來た。お婆さんが拾つて歸り、お爺さんご一しよに切つてみるに桃太郎が生れたといふのであります。桃が嫌ひな先生ではこの話は死んでしまひます。私はバナナの方がいい、或は、流れよる椰子の實一つなきといふセンチメンタルな先生もあるかもしれぬ。(笑聲)が、それではこの話は死ぬのであります。桃が食ひたくてたまらぬ先生が話してこそ、桃よこい／＼早くこい、さなる。(笑聲)桃太郎が生れてくるのは後の話であります。流れてくる桃を拾ふのも食慾がさせる勇氣である。(笑聲)あれを持つて歸り、お爺さんに分けて食べたいといふ氣持であります。持つて歸るに赤ン坊が生れる。聞いてゐる子供の氣持としては、あんなに食べたがつてゐるのが駄目になつてつまらないね、と思ふかもしれない。しかし強い子供が一人でも多く欲しいといふ國民的感情に燃えてゐるから先生はさうは思はない。こうして話がつぎ／＼發展してゆくのであります。鬼ガ島への遠征も、物欲的であるか又は正義であるか、今日の世界建設の氣持で話すかではそこに非常な違ひがあります。寶物は昔だから金銀珊瑚綾錦といひましたが、今ではへばガソリン、石炭、ゴム、錫、砂糖(笑聲)なき甚だ語呂があひませんが、それこそ今日の寶物です。そして終りに萬歳、何かで萬歳が言ひたくてたまらないのが今日の日本

人の心なのであります。それかさいつて電車の中なごで突然萬歳ミやつては却つて人に心配をかけますから(笑聲)ひかへてゐて一緒の時にやるのですが――。子供はいろ／＼な方向からの嬉しいね、よかつたねであります。その一同の國民的感情に溢れてゐるから萬歳が出て來るのであります。皆様は今、古事記の話をなさるでせう。我々もして居りますが、面白くないけれど一週に一度はしなければいけないといふからするのよ。(笑聲)これが日本の國のはじまりなのですつて、本當か嘘か知らないけれどさうなのだそうです。あゝなのだそうです。(笑聲)さいつても子供等は少しも感興を起さぬでせう。それではいけないのです。

又よく古事記作者について話す方がありますが、これは童話學史の講義でもない限りいらぬことあります。子供は一々のお話を誰がつくつたか等さいふこまは一寸もかまひません。中には正直な方があつて、桃太郎の話は誰が作ったのか判りませんが、(笑聲)なごさいつてゐる方があります。古事記にしても、古事記の歴史的、文學的價値を子供に判らせる必要はありません。古事記の成立は、日本の理念的解釋としては重大でありますが、我々は、古事記の中の明朗、單純、清楚なる日本的喜びを傳へればよいのであります。あの中のごの話もこの日本的明朗の喜びを含んでゐますが、あの當時日本人の持つてゐた清楚な、素直な

喜びを我々の今の喜びに擴大するのでなければ、日本人が日本の古事記を話す價値がありません。つまり、我々の祖先の國民感情を傳へるのです。

久留島さんが一月に一回、ラヂオで我國の古典について子供達に話されてゐます。先頃もお會ひしていろ／＼話したことですが、これは非常に結構のことであると共に、なかなか難しいことでもあります。此の間は萬葉を子供に話されたが、あの時、防人の歌をひいて來て、「防人の歌は今もありますね」さいはれた。日本人の感情が最も眞實に籠められてゐる萬葉なら、萬葉に於て今をあらはすのでなければなりません。傳統、お伽噺、何でも同様であります。まして生きた時局のお話に於ては尙更であります。昨日或る會員の方が軍神の話について、子供達にさの位に話したらよいだらうかさいふお尋ねがありました。それで私はかうお答へした。「それは、程度をきめるのは難しいことですが、貴女の感激そのものを以てお話をさいせんか」さう申したのであります。その感激は何かさいへば、よくぞ戰つて下さいました。有難うございます。これが感謝であります。えらいご感心するよりも、有り難いご感激するのです。これこそ子供等に傳へるべき事であると思ひます。さう考へるご今日の幼稚園でしてゐられる談話さいふものは、眞實に我等の氣持をあふれさせるものでありま

す。私はその喜びを歌ふ唱歌が澤山欲しいと思ふ。我々が子供の時歌つた「あなうれし、よるこばし」の歌、あれを今日に歌ひたいのであります。「あなうれし、よるこばし」、戦勝ちぬ、百千の仇は皆あまなくなりぬ「事實そうなのです。昔の歌じやない。今の歌です。事實のまゝに、あゝ嬉し、

あゝ嬉し、戦勝ちぬ、實に單純であります。子供三手を取つてあゝ嬉し、あゝ嬉しといふ立派な皇民感情であります。手技で日の丸を塗つても、喜びで塗り、喜びで立てねば今日の教育ならぬのであります。皇民感情を喜びに於て把握させないものは今日の教育ではありません。

子供の心をほぐれさすことは、個人の力では非常に難しいことあります。玩具をなくして泣いてゐる子供に「何を泣いてゐるの、泣くのおよしなさい。人生は楽しいのよ」(笑聲)といつても、「又現實は失はれる。しかし來世は輝かしいのよ」(笑聲)等といつても、子供は嬉しがりはしません。たゞ國民的喜びは容易にさうさせ得るのであります。「玩具なんかさうでもない、ちやないの」、でもありませんが、「そんなことで泣くな。今御國はこんなに勝つてゐるのよ、嬉しいぢやありませんか」さかういつていゝと思ふのであります。理を教へ難く、義務を教へ難く、喜びのみを語りうる幼児達に、喜びを如實に語り得るがこそ現時局下の幼児保育で、それが、こんなに溢れる程出来る。誠に有難い

ことであります。

そこで、國民的嬉しさを、國民的喜ばしさを、語れども語れども盡くせぬこの時局下に於て、その喜びから生れ出る教育方向として、子供をさういふ人間に育てようかといふ種種の問題があります。

時局下に於ても人間として大切な道德的價値は變ることはありません。特に現時局下に重點をおくならば、戦へる時局、建設する時局であり、その何れも長きにわたるのであります。これに向つての用意、これは今日の教育の必須條件であります。若い方は現時局下は自分で背負つてゐるさういふ氣持の方も澤山あるでせう。しかし、現時局は何年つゞくかわかりません。さうなるさ背負ひきれぬのであります。後を子供等に頼むより他ありません。しかつかりやつてくれ頼むのであります。さうするさ子供等曰く、「よろしい、安心して下さい。でも頼むばかりでは駄目だ、出来るやうにしておいてくれなければ」さかういふのであります。その出来るやうにしておくさいふのが教育なのであります。

教育は從來、普遍原理に於て爲されました。今日は後に托すべきことをなす様に思へますが、教育の普遍原理は變つたわけではなく、時局下その意義をますものと思ひます。

そこで、戦ミ建設の二つについて、さうしても必要なことは耐へることであります。そこで、これを假りに、耐久性の教育をいつておきます。

## 二、耐久性の教育

時局の始めに掲げられた堅忍持久、あれでよいのであります。たゞ持久といふは持ちこたへずぎてゐる感じなのでかう言つたのであります。戦も建設も事、容易ならざる事であり、この苦しさに耐へてゆくことも容易な事ではありません。この苦しさ、これを忍ぶのが第一であります。しかも、それが長き戦、長き建設なら、出来るだけ久しきに耐へねばなりません。幼児が久しきに耐へるさいつても今はそれ程期待できませんが、後におこなごなつては、非常に耐久してもらはなければなりません。一週間もの喰はず坂を上つてもらはねばなりません。五日、クリークにひたつてもはねばなりません。あの酷暑、あの炎熱の下に立ちつくしてもらはねばなりません。あの新しい土地で前は他のものだつたものを、今は自分のものとして建設してもらはねばなりません。そこにぎの位大きな耐久性を今の五つの子が具へなければならぬ時が来るかと思ふに、我々は武者標ひをするのであります。今は、出来ないが、さういふ事もやあらん具へてゐる十年前の今日とは譯が違ふので

あります。今は、きつさういふことになるに、それを條件にこの時局が開始されたのであります。あの小さい子供をそれに耐へるやうにしておく事は時局そのものゝ要求するところであり、我々が時局から托せられた任務であります。

その耐久性は子供の生活の中で如何なる位置をもつものか先づそれを考へてみませう。幼児の生活は大體に於て、その生活力の發生のものは本能であります。生活全部が本能ではありませんが、本能的に出てゐるのであります。あの叢に入つて一匹のバッタをタ根氣よく探す。あたかもジャングルをわけて敵兵を求め兵士の如し(笑聲)であります。中にはそれも出来ぬ子供もゐます。バッタは飛ぶものなり、此方へ来たらかまへよう(笑聲)等悟を開いたやうな子供もゐるでせう。が、多くの子供はさうではありません。大人は感心してゐます。實にえらい。私はこの間鉛筆をなくしたが探すのは面倒だから探さない、(笑聲)ところが子供はビードロの玉一つなくしても一生懸命探す、實にえらい。」

確かに偉いがこれは本能であります。本能であるさういふ事は、その生活に價値がないではありません。けれども教育的に考へて、本能生活のまゝでおいたならばさうなる



でありませうか。問題は二つあります。一つは、その本能がなくなつ時にはその生活はやんでしまふ。子供の時はパッタを追ひかけたが、四十になつても我本能によりパッタを追ひかける(笑聲)等といふのはない。また或は變つた本能も出て来ますが、本能そのまゝでおいたならば、子供の本能は大人につゞくものではありませんから何の頼りにもならず、本能それ自體が衰へるのであります。二つ三言つ

たその第二には、つまりその事だが、他の方面の所謂高等知能が発達して、本能の中にある知的、意的方面の一方だけが發達してくる。本能は知的、情的なものが渾然と發達してゐるのであつて、そのまゝつゞければ本能でありま

す。しかし私はこれまで、「本能は本能自體として發達する、幼くしては小本能、若くしては中本能、老いては大本能、若くしては中本能、老いては大本能なる」(笑聲)といふ學説をきいた事がありません。本能は必ず分化してきて、知能と情意に分れ、情意は更に情意に分れてゆくのであります。この各方面が発達して、心理的生活に入るのであります。そこで我々は子供の本能を尊重しますが、あれをそのまゝにしておけば、これが衰へるまいふことその他に、本能に二つある發達方向が一しよになるまいふこと、情意と知能の發達がちがふことになるかもしれません。子供の本能的渾成生活はちがはぐであります。問題は、知

能も本能から構成してゆかねばならぬといふことであります。遊戲をする時も情と共に知の發達もはかるまいふのになければなりません。こゝにいふ耐久性の教育は、本能を情意に置き換へねばならないといふ事です。パッタを三十分追ふ、頼もしい子供であります、これがいつまでつゞくでありませうか。

保育は本能を漸次知的、情意的にかへてゆくことであります、その中 耐久性教育は本能の情意的方面をすゝめてゆくことであります。幼児の耐久性教育に於て、本能を無視して、たゞこれを忍耐競べ(笑聲)といふのではなかなか難しいのであります。明後日發表される體力競技もこの邊に工夫があるのであります。我々でしたら、一つ一つ體力を鍛へるべく體操が出来ますが、幼児では競技即ち本能に訴へるのであります。しかし、本能を味附けることはしますが、それを意圖そのものにかへる事を目的としなければなりません。中にはこれを説明して、「あなたはパッタばかり追ひかけるけれど、それは偉くないことなのよ、本能なのよ」(笑聲)と徐ろに説明して、「でせう、ざるべからざるでせう、時局下必要でせう、かういふことは時局下必要でせう、だからませう」(笑聲)等といつて、パッタのゐないところで「叢かきわけ體操」(笑聲)をするわけにはゆきま

せん。本能をつかつてはるるが、狙ひ所は意志にかはつてゆく、進んでゆくさいふのでなければなりません。子供はよく喧嘩をします。相當強い生活であります。喧嘩の出來ぬ子供には多分戦も出來ないであります。人を泣かしたりするのはいさも頼もしいものです。(笑聲)中には喧嘩の出來ない子供もゐませう。「我人三争ふを欲せず」なごさいふ、明日入滅する高僧のやうな子供もゐるかもしれませぬ。(笑聲)しかし、子供は本能だからする、あゝ頼もしいと思ふ。この子が幾歳になつても大本能、博徒の親方になつては困りますが。(笑聲)しかし、腹がたつて「イー」さや、我慢するのは本能ではないから喧嘩しましたさいふばかりではいけない。手をふるはして打たぬ、齒をくひしばつて泣かぬ、

これは本能ではありません。喧嘩をみつけるこ、幸なるかな本能暴露、(笑聲)この機會を利用して、さいふわけで、先生も片方に加勢して本能のあらはれだもつこやれ、こ應援する。(笑聲)これも大切でありますが、本能を高めるこ共に耐久性を養はなければなりません。

今日賤さいふこが重んぜられてゐますが、皆様のやうな美的、道德的淑女は、美的道德的賤をなさる。よい子供さいふ言葉が、人生美的及び本能的の言葉であります。よ

い子供の事には、強さも含むのでありますが、兎角スフに糊づけして鍔したる(笑聲)——こんな言葉はないでせうが、——子供さいふやうなこになりがちではないでせうか。教育はこごごこく、みてくれの結果をならべてゐるのではありません。賤教育に於て、みてくれの結果をならべてはならないのであります。賤は自由主義に對する言葉であります。賤教育は、如何に賤られて行くかさいふ事でありませぬ。私はあまりしたこごはないのですが、布地にアイロンをかけてみますこ、一寸折目をつけるこすがびたつこなる布もありますし、又、なか／＼おさへられないものもあります。子供にも一寸折目をつけるこすぐ押へられる賤い、子もあります。その賤に對抗する程の本能をもちあはせてゐないのであります。反對に、本能が強くてなか／＼賤られない子供もあります。

賤は外からやつてゆく事ではありますが、内の力を外にかりてやつていゝのであります。先生が子供をなぐる時、あなたの良心に代つてなぐるのよ、つねるのよ、(笑聲)さいへる。良心に代つてさいふのは、先生からいへば、あなたを愛するが故に、さいへるのであります。相手の子供からいへば、自分で自分をさうすることゝ出來ぬ年齢が、他人の力を借りて抑へてゐる、自らを抑へるこごを他人の力を借りてするのであります。賤は耐久性を養ふこごで

あります。本能から意志にうつる力を、外からたすけるのが躑でありませう。習慣は躑であるといひますが、繰返せば物でもさうなりませうが、躑はそんな物理現象ではありませぬ。

たゞ機械的に繰返されてゐるのではなく、生活の戦も矛盾もそこに繰返されてゐるのであります。約束する、きつミかうしませうと約束する、そして、さうして約束通りしなかつたの、いけませんね、と叱る。しかしきめたことが、さうしてなかく出来ぬのがあたりまへであると思ふのであります。きめた通りにする事がたやすく、出来る子なら針金か蠟細工であります。(笑聲)さうなれどいつても容易にさうならぬのが遅ましい子供であります。しかし、耐久性を養ふのはそれでは出来ぬのであります。普段優しい先生がきつい眼で睨む、子供は先生の眼にハッと思つて齒をくひしばつてやるのであります。これを道徳にかへれば、自己に對する責任であります。昔の武士は、武士たるものこれに耐へずしてすまうかといひ、今の兵士は、日本の兵士たるものこれに耐へずしてすまうかといつて耐へたのであります。これを普遍的にいへば、我たるものこんなことよかるべきやといふ事になります。武士であり、兵士である我に對する自己責任感であります。外の力で意志的に本

能を誘導する貴女は子を躑けるべく強き意志の所有者でなければならぬこと申す迄もありません。

もう一つ彼自身に訴へるものがあると思すれば、それは自己責任感であります。これは實に難しい。日本人は切腹をする。切腹は昔の話ではありません。戦争が始つてすでに何人かの軍人が或は船長の方が、自己責任感から自決されました。これは自己の生活の扱ひ方であります。しかしこんな高尚な自己責任感を子供に與へることは出来ません。また「先生、約束を守らないですみません。切腹してお詫びします。ウーン」(笑聲)なきといふのでも困る。しかし、自己責任感にゆく一つの道としての、子供らしき幼い姿にして、はづかしいといふ事、口惜しいといふ事、これは大切であります。これは一つにくつゝいた裏表であります。中には一方だけ發達してゐる方もありますが――。

ある子供ははづかしめてよい。口惜しがらせてよいのであります。きめておいて、その通り出来なくてはづかしくないか、口惜しくないかといつてよいのであります。しかも、こゝではつきり申しておくことは、そのはづかしい、口惜しいを對他的に責任轉換してはならない、それだけかに自己を慰めてはならない、といふことあります。